



鹿骨東小学校



鹿骨東小学校公式ホームページ <http://edogawa.schoolweb.ne.jp/shishibonehigashi-e/>

秋と言えば・・・

鹿骨東小学校 校長 中田 伸代

秋は、素敵な季節です。紅葉と共に自然の美しさや収穫の喜びを感じる季節。食べ物のおいしさもさることながら、日本では昔からスポーツの秋、芸術の秋、読書の秋と何かを始めたくなる季節でもあります。

本校では先月、縄跳びパフォーマーの「縄跳びふっくん」こと藤沢祥太郎先生をお招きして、全校児童が縄跳びの出前授業を受けました。藤沢先生は縄跳びのフリースタイル部門で日本選手権で優勝4回、アジア選手権優勝、世界選手権準優勝の記録を持つすごい方です。大学時代は「小学校の先生になろう」という夢をもって先生になる勉強をしていた藤沢さんですが、小学生の時から続けていた縄跳びをもっと続けたいという思いから、「縄跳びパフォーマー」として縄跳びを極めながら子供たちに縄跳びを教える活動を始めたそうです。「全国の子供たちに縄跳びの楽しさ、運動の楽しさを伝えるのが私の使命」と考えて活動しているそうです。

縄跳びについてちょっと調べて見ました。縄跳びの歴史は古く、古代エジプトや中国では紀元前2000年頃の壁画にもその様子が描かれているそうです。又、アフリカでは祭や儀式で若者がリズムに合わせて縄跳びを行い、コミュニティーの一体感を高める役割を果たしてきたそうです。

中世になると、ヨーロッパで子供たちの遊びとして広まり、様々な技や跳び方が発展。そして近代では1793年にドイツのムースという人が「青少年の体育」という本の中で縄跳びについて記述したのが近代縄跳びの始まりだそうです。現在ではスポーツとして、フィットネスやトレーニングの一環として取り入れられています。本校でも「縄跳びマスター」週間などを通して子供たちの体作りのために全校で取り組んでいます。また、長縄週間はクラスの団結力を高める為にとっても良い取組です。いつでもどこでも簡単にできる縄跳び。ご家族で挑戦してみるのも良いかと思います。

さて、秋は日本各地で「祭」が行われる季節でもあります。先月の21日22日には、6年ぶりに鹿島神社の例大祭が行われました。学校の周りでも太鼓や祭囃子に合わせて子供たちの山車や御神輿が練り歩き、活気がありました。先日の「ほねっ子祭」でもPTA、おやじの会、小岩消防署、鹿骨区民館、そして地域の皆様に大変お世話になりました。また、今月は区民まつりのパレードにも6年生が鼓笛隊で参加します。さらに6年生は体育大会で区内の他の小学校の児童と共に陸上競技にも挑戦します。現在はその練習も始まっています。縄跳び、祭の太鼓やお囃子、そして鼓笛隊もそれぞれの歴史を通じて、集団での団結力や祭やコミュニティーの連帯感を支え人と人とのつながりを生む重要な役割を担っています。また子供たちにとって楽しい活動であり、成長を促す大切な要素であると考えます。地域の中で育つ子供たち。行事の多い秋ですが、様々な体験を支えて下さる地域やご家族の皆様のおかげで、「鹿骨東っ子」としての思い出と共に学校や地域を愛する気持ちが育って行くことと思います。

